

1. 中学校英語における特別な配慮が必要な生徒への対応

10月説明会時から赤字部分を更新

令和8年度調査の中学校「英語」における特別な配慮が必要な生徒への対応は以下のとおりです。従来と同様、各学校の判断により、当該生徒の障害の種類や程度に応じた配慮が可能です。加えて、各学校において以下のような配慮をすることも考えられます。

- 必要に応じて、付添者が、端末画面に表示されている文字を音読し、生徒から解答を聞き取り代理入力するといった対応（口頭解答をするため別室で実施）。
- 必要に応じて生徒が日常使用している入出力支援装置、端末のアクセシビリティ機能（※）の活用。ただし、テキストデータではなく画像データにより問題文を示す設問など、これらの装置等に対応できない設問もあることに留意。

主な対象	中学校英語における調査資材	調査問題冊子・解答用紙
視覚障害のある生徒	拡大文字問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信【4技能で作成】 ※代理解答可
	点字問題冊子 (解答時間延長)	PBTで作成・配布【4技能で作成】 ※「聞くこと」は、CDにて音声を聞き取り、 点字問題冊子で回答 「話すこと」は、点字問題冊子で補足情報 を読み取り、MEXCBTにて解答を録音 ※代理解答可
聴覚障害のある生徒 ※ただし、右耳・左耳それぞれ平均聴 力レベル60dB以上の生徒は、「聞くこ と」と「話すこと」に関する調査の 対象としないこととすることも可。	スクリプト表示問題プログラム ※ 問題音声の内容が画面上に 文字として表示されるもの	CBTで作成・配信【「話すこと」のみ】 ※代理解答可
発話に困難さがある生徒	代筆解答プログラム	CBTで作成・配信【「話すこと」のみ】
肢体不自由・病弱等 その他の障害のある生徒	時間延長問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信 ※代理解答可
日本語指導が必要な生徒	ルビ振り問題プログラム (解答時間延長)	CBTで作成・配信【4技能で作成】

(※)音声読み上げ、ピンチ操作、反転・リフロー表示、フォント・コントラスト変更等

令和8年度全国学力・学習状況調査における特別な配慮

〔スクリプト表示問題プログラム〕

問題音声の内容が画面上に文字として表示されるもの



※補聴器等と干渉する場合等はヘッドセットの着用不要
(マイクのみ使用)

〔代筆解答プログラム〕

発話に困難さがある生徒が解答を行うに当たって、教員が代筆解答のために使用するもの

生徒は、自分の端末を用いて、障害に応じた配慮版プログラムで問題を確認して、口述で解答する。

教員は、別のICT端末から代筆解答プログラムに接続して、聞き取った内容を入力する。

(教員が聞き取って入力した内容と生徒が口述した内容が一致しているかどうかについて、適宜確認すること)



2. 配慮版問題のサンプル問題搭載について

令和8年1月中旬頃に、中学校英語のサンプル問題（拡大文字問題・ルビ振り問題・スクリプト表示問題）をMEXCBT上に搭載予定です。これらのプログラムは、本番の問題と同様の形式となっていますので、普段の学習で使用している入出力支援装置や端末のアクセシビリティ機能（※）がどの程度使用できるのか確認いただき、調査実施時の学校における対応方法の検討をお願いします。

（※）音声読み上げ、ピンチ操作、反転・リフロー表示、フォント・コントラスト変更等

令和8年度全国学力・学習状況調査国語・算数・数学における特別な配慮

○従来と同様、各学校の判断により、当該児童生徒の障害の種類や程度に応じた配慮を可能とします。

○小・中学校の各教科（中学校英語以外）における配慮問題等の必要部数については、1月7日～16日で実施するCD調査にて、例年どおり照会予定。

主な対象	国語・算数・数学における調査問題冊子	国語・算数・数学における解答用紙
視覚障害のある児童生徒	拡大文字問題冊子	拡大文字用解答用紙 通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)
	点字問題冊子	点字用解答用紙 通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)
聴覚障害のある児童生徒	通常問題冊子	通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)
肢体不自由・病弱等 その他の障害のある児童生徒	通常問題冊子	通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)
日本語指導が必要な児童生徒	ルビ振り問題冊子	通常問題と同じ解答用紙 (代筆可)

3. 調査の対象等

（2）障害のある児童生徒に対する配慮

障害のある児童生徒については、各学校の判断により、当該児童生徒の障害の種類や程度に応じて、調査時間の延長、点字、拡大文字、ルビ振り問題の使用、代理解答、別室の設定、及び英語「話すこと」調査におけるスクリプト表示問題などの配慮を可能とする。

ただし、特別支援学校及び小・中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、以下のア又はイの事由がある児童生徒は当該事由に係る教科について、ウの事由がある生徒は英語「聞くこと」及び「話すこと」について、原則として調査の対象としない。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている場合

イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている場合

ウ 右耳・左耳それぞれの平均聴力レベルが60デシベル以上であって、英語「聞くこと」及び「話すこと」の調査の実施が難しいと判断される場合

（3）日本語指導が必要な児童生徒に対する配慮

日本語指導が必要な児童生徒については、各学校の判断により、調査時間の延長、ルビ振り問題の使用などの配慮を可能とする。また、国語、算数・数学又は英語の時間に日本語指導のための取り出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

【参考②】令和7年度全国学力・学習状況調査実施概況

○支援が必要な児童生徒の参加状況

※ 令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」の集計結果（速報値）。

小学校（回収率：65.7%）			中学校（回収率：62.3%）		
長期欠席児童	障害がある児童	日本語指導が必要な児童	長期欠席生徒	障害がある生徒	日本語指導が必要な生徒
11,314人	26,545人	2,626人	14,893人	8,322人	1,635人

○小学校・義務教育学校・特別支援学校（全国）

※1 令和7年4月8日時点における学校数。

※2 該当解答（回答）用紙を提出した（またはオンライン方式で回答した）児童生徒数。

	学校数			児童数 ※2			
	調査対象者 在籍学校数 ※1	実施数	実施率 (%)	国語	算数	理科	質問
小学校	18,221	18,090	99.3	956,444	956,573	956,629	939,981
義務教育学校 (前期課程)	255	253	99.2	9,369	9,379	9,386	9,232
特別支援学校 (小学部)	163	149	91.4	356	352	357	357
計	18,639	18,492	99.2	966,169	966,304	966,372	949,570

○中学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校（全国）

	学校数			生徒数 ※2			
	調査対象者 在籍学校数 ※1	実施数	実施率 (%)	国語	数学	理科	質問
中学校	9,675	9,118	94.2	889,628	890,167	888,704	889,575
義務教育学校 (後期課程)	262	261	99.6	9,250	9,255	9,235	9,245
中等教育学校 (前期課程)	59	49	83.1	5,112	5,118	5,120	5,114
特別支援学校 (中学部)	198	183	92.4	473	468	469	479
計	10,194	9,611	94.3	904,463	905,008	903,528	904,413

【参考③】CBT配慮版問題プログラム 使用実績

主な対象	調査資材	令和5年度英語「話すこと」		令和7年度理科	
		実施人数	当日実施分	実施人数	当日実施分
視覚障害のある生徒	拡大文字問題プログラム	120	7	370	361
	点字問題冊子 ※ 英語「話すこと」の解答はCBTで録音	40	6	20	20
聴覚障害のある生徒 ※右耳・左耳それぞれ平均聴力レベル60dB以上の生徒は、「聞くこと」「話すこと」調査の対象としないことも可。	スクリプト表示問題プログラム ※ 問題音声の内容が冊子・画面上に文字として表示されるもの	246	15	—	—
発話に困難さがある生徒	代筆解答プログラム	46	3	—	—
肢体不自由・病弱等 その他の障害のある生徒	時間延長問題プログラム	169	7	115	108
日本語指導が必要な生徒	ルビ振り問題プログラム	1,431	273	10,949	10,810
上記以外	通常問題プログラム	903,318	46,878	892,074	878,868
合 計		905,370	47,189	903,528	890,167

- ✓ CBT化により配慮問題プログラムを柔軟に配信・利用できるようになったことがうかがわれる。
- ✓ 通常問題においても、一定数がMEXCBTの文字の拡大機能を利用していると考えられる。